

あお み てん
仰ぎ見る天に

加羅古呂庵 一泉

2020.8.14 作曲

あお み てん 仰ぎ見る天に

さいとう ひろし
齊藤 博氏のご依頼により作曲した尺八と箏の二重奏曲です。

「今こそその100年に一度の天の催し物、人間がやりすぎたことに対しての謝りと頑張りを表すような、太陽系外縁天体に敬意を表する音楽を期待します。」とのことでしたので、全体を3つの部分に分け、「謝り」「敬意」「頑張りをイメージしてみました。

いまだに新型コロナウイルス感染症の終息は見通せず、もやもやとした気分にとらわれがちになりますが、たまには天を仰いで、太陽系の果ての天体から見る地球を思い浮かべると、その美しい本来のすがたから、明日への元気が生まれてくるかもしれません。